

【会場/オンライン対応】投資と要求に合ったITプロジェクトの見極め方

(4221039)

これからのIT部門は、競争力のある差別化システムを作るため、「QCD、SLAの達成」から、企業が継続して成長していくために立てられた「組織戦略と価値創造達成」に更に視点をあげ、どう実現すべきか戦術が問われています。そして更に、ビジネス戦略に沿ったIT戦略へのIT投資が、企業に更には社会・市場へどのような貢献・変化の影響を与えていくか、測定し明示することが求められています。プロジェクトマネージャー、プロジェクトマネージャーの上級を目指す方、IT企画の方など必見の講座です。

カテゴリー	IS戦略策定・IS戦略評価・IS企画・IS企画評価 IS戦略実行マネジメント・プロジェクトマネジメント 専門スキル
講師	中谷英雄 氏 (株式会社ピーエム・アライメント 取締役 ビジネスコンサルティング部長) PMI認定PMP 2013年 米国PMI最優秀教育プロバイダー認定 スクラムアライアンス認定スクラムマスター (CSM) プロダクトオーナー (CSPO) <略歴> 1. BIPROGY (旧:日本ユニバック) (1983年~) 2. 三井住友信託銀行 (旧:三井信託銀行) (1990年~) 3. ピーエム・アライメント (2006年~現職) ・主に金融IT大規模プロジェクトのPMO支援に従事。 ・その後大学院でデザインマネジメントを学び、社会課題の解決、金融商品の開発等でデザイン、アート、顧客体験等を活用。 ・現在、新事業創出、デザイン戦略、イノベーションとDX推進に関わる諸テーマを中心に、コンサルティング活動、教育活動を展開している。 <研究会活動> ・PM関連: PMIJ会員(アジャイルPM研究会会員、プログラムマネジメント研究会会員) ・イノベーション関連: JUAS (イノベーション研究会会員JIIP3) PMIJ会員(ソーシャルPM研究会) ・震災復興関連のNPO向けに、イノベーションプロセスの活用支援展開中 <PM関連書籍著> 監修 PMI 日本支部 「PMツールの実践的活用」プロジェクト 翻訳メンバー PMIプログラムマネジメント標準 第2版
対象	プロジェクトマネージャー、その上級を目指す方、IT企画担当者 オーダー専用 上級
開催形式	オンライン ライブ配信
定員	25名
取得ポイント	PDU取得修了書発行

主な内容

- ・日数: 1日 (7時間)
- ・開催形式: 会場 / オンラインどちらでも対応可能

◆本講座の特徴◆

1. ビジネス戦略とIT戦略のリンケージの重要性を理解し、実現する具体的な手法を習得する。
2. IT投資をベースに、成功とはどのように測定するのか、具体的方法を習得する。
3. IT活動の成果を超えて、市場・社会への変化の影響(インパクト)の測定方法を習得する。
4. プロジェクトの優先順位付け、プロジェクト撤退の客観的な説明方法を学ぶ。
5. プロジェクトの上存在する上位フレームワークを理解し経営が要求する全体観を身に付ける。

◆内容・スケジュール◆

1章. 市場を取り巻く環境変化

- (1) デジタル化の課題と現状認識
- (2) デジタル時代に適応した新しいIT投資管理とは

2章. 投資要求に合った価値連鎖の説明

- (1) 投資要求に対する説明に関する現状認識
- (2) 企業におけるインパクト測定の狙い
- (3) インパクト創造サイクル
- (4) インパクト測定計画作成手順

(5) インパクト測定計画 事例紹介

<演習1>

3章. インパクト測定計画を用いて、価値創出を説明する

- (1) 主要なインパクトを特定する
- (2) 一次インパクトを洗い出す
- (3) 二次インパクトを洗い出す
- (4) ベネフィットマップを完成させる
- (5) 測定データ収集計画を作成する
- (6) 経営者に、価値提案を説明する

4章. 選択と集中、投資価値の最適化方法を体得する

- (1) ポートフォリオの基本的な考え方
- (2) 様々な優先順位付け方法の紹介

<演習2>

プロジェクトの優先順位付けの根拠を論理的に説明する

<演習3>

プロジェクト撤退の理由をステークホルダーに論理的に説明する

5章. ITポートフォリオ事例紹介

6章. ポートフォリオマネジメント（フレームワーク）の組織適応は変革が伴う ☒

※PMP資格取得者の方へPDU取得修了書、これからPMP資格を目指す方には、「受講証明書」を発行いたします。

◆参加者の声◆

- ・ 経営に対する説明方法、フレームワークを学べ、非常に良い題材で実践的な内容だった。（製造業）
- ・ 実際にプロジェクトを執行するか、撤退するか判断をすべき立場にあり、理論的で理解が深まった。（建設）
- ・ 事業環境が厳しい中、これまでのマインドのままではダメであるという考え方と、何をすべきか刺激をうけた（製造業）
- ・ ワークショップを通じて理解が深まる仕組みになっており、実務に即役に立つ。（製薬）
- ・ 難しいテーマにもかかわらず、講師の説明が分りやすかった。（IT系）